And during that time, in Fukushima

サウンド共同プロジェクト／オープンサウンド・ライブラリー

by ドミニーク・バレイ

連絡先

Dominique Balaÿ
contact@websynradio.fr
18 rue Pasteur 30-Nîmes
France
(+33)6 72 67 35 09

プロジェクト概要

「*And during that time, in Fukushima ...*」は、福島から始まるサウンド共同プロジェクトです。
パートナー機関の INA GRM（フランス国立音響映像研究所）、ラジオフランス France Musique、Droits de Cité 誌、webSYNradio ラジオプログラム、そしてマルチメディア・ラボの APO33 による支援のもと開催されます。

福島第一原子力発電所の事故以降まもなくして、大友良英を中心に日本のアーティストたちが集まり、プロジェクト *FUKUSHIMA!*が生まれました。福島でのフェスティバル開催への呼びかけは瞬く間に世界中に広がり、ロンドン、ニューヨーク、バンコク、ソウル、シンガポール、パリなど、各地で連動したイベントが立ち上がりました。

私自身は、ニューヨークの The Stone で、これらのイベントの一環に関わる機会がありました。大友良英とジョン・ゾーンに協力し、２０１１年８月１５日に The Stone で行われた世界的な音楽家たちのライブを、私が創立し運営する WebSYNradio というインターネットラジオで放送したのです。フェスティバルの後もプロジェクト *FUKUSHIMA!*と WebSYNradio の関係は続き、２０１２年に新たなプロジェクト「*And during that time, in Fukushima ...*」を開催する運びになりました。

このプロジェクトの仕組みはとてもシンプルなものです。まず今年５月に軽量の機材を持って私が福島に赴き、現地に１０日間滞在します。プロジェクト *Fukushima!*の活動に参加している様々な人々と出会いながら、福島における日々の生活の音を録音します。また、私自身の録音作業と平行して、福島の音を広く募集し、フクシマ・オープンサウンド・ライブラリーを立ち上げます。

そして、このライブラリーに集められた音を用いた作品を世界各国のアーティストに委嘱し、それぞれの方法でこの問題に立ち向かい「そこ」と「ここ」の間に命綱を投げるように呼びかけます。

こうして創られた作品のセレクションは、９月に France Musique のスペシャルプログラムにて放送されます。これに伴い、ライブコンサートや会議など、多彩なイベントがフランスで繰り広げられる予定です。

このサウンド共同プロジェクトは、和合亮一、遠藤ミチロウ、そして大友良英によるプロジェクト *FUKUSHIMA!*宣言において提示された一つの方向に対して、私なりに忠実であり続けるための応答です。
「現実とどう向き合うかという視点と方向性を人々に示唆する力を秘めている音楽や詩やアートが必要だ」プロジェクト *FUKUSHIMA!*宣言

音、大募集中！　―　参加方法

福島の様々な音を集めるため、広く、音を公募します。どなたでも参加できますので、是非、音を送ってください。なんらかのかたちで福島に関係のある音であれば、どのような音でも構いません。街の音や家族の集まり、会議、仕事環境の録音、インターネット、ラジオやテレビのストリーミング、朗読、授業、自然の音、音楽、などなど。
この「オープンサウンド」のライブラリーに貢献してくださる方は、とりあげた音の背景や特徴について紹介文を一言添えてください。ご希望があれば、お名前とプロフィールを寄贈者リストに掲載させていただきます。

興味のある方は音声ファイルを下記のアドレスまでご送付ください。
contact@websynradio.fr
もしファイルが大きすぎるようでしたら、オンラインソフトの WeTransfer: https://www.wetransfer.com/、あるいはその他のメールサービスをお使いください。

どのようなフォーマットでも受け付けますが、できれば WAV, AIFF といった非圧縮フォーマットがベストです。長さの制限は特にありません。

このプロジェクトの記録を構築するべくウェブサイトを立ち上げます。「オープンサウンド」ライブラリーの音は、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもと、どなたでも使えるようになります。そして、委嘱アーティストは、これらの音をリミックスして作品を創ります。

呼びかけ人は誰？

ドミニーク・バレイ、1968 年フランス生まれ。フランス、ニーム在住、インターネット業界で働いている。ニーム大学講師、webSYNradio のデザイナー／クリエイター、Droit de Cités 誌の編集委員。Ralentir Travaux, Le Mâche Laurier, : éc/ art S, Variable, Autre Sud といった文芸・アート雑誌に寄稿しながら、数冊の著書やコレクションを発表している。２００９年、評論誌の Droit de Cités の招聘により、主に国際的に活躍するアーティストや知識人からの斬新な提言を一堂に集めるプロジェクトとして、webSYNradio を立ち上げた。詳細は varias.info。

プロジェクト・パートナー

当プロジェクトに関連して様々なイベントが展開されます。

France Musique

招聘アーティストは、France Musique（フランク公共ラジオ、ラジオフランス・グループ）の電子音楽や電子音響音楽に特化した Electromania というプログラムで、作品が放送される機会があります。

GRM

２０１２年９月に、France Musique と INA GRM 共催によるコンサートが行われます。GRM (フランス音楽研究グループ) は、１９５８年にピエール・シェフェールによって創設された音と電子音響音楽の研究センター。１９７５年に INA（フランス国立視聴覚研究所）に統合されました。

APO-33

APO-33 のクリエイティブ・スペースではレジンデンスとパフォーマンスが繰り広げられます。APO-33 は、フリーソフト、実践的コラボレーション、マイクロメディア、環境・都市変異のフィールドにおけるアートとテクノロジーのリサーチラボ。

Droit de Cités & webSYNradio

当プロジェクトの編集内容は、今後 Droit de Cités 誌において様々なかたちで発展する予定です。Droit de Cités は、現代の知的な課題や、アーティスティック、そして政治的な問題について建設的に議論を展開することを目指すオンラインの評論ジャーナル。ここから発生するオンラインのワークッショップや様々な分野のアーティストによるフォーラムなどのゲートウェイになっています。

webSYNradio

WebSYNradio は Droit de Cités 誌のワークショップで、ドミニーク・バレイがホストを勤め、毎日２４時間、休みなくストリームされるラジオプログラムです。

リンク

下記リンクから、フランスカルチャーによる当プロジェクトについてのインタビュー（フランス語）が聞けます。（番組後半）http://www.franceculture.fr/emission-l-atelier-du-son-jerome-game-et-dominique-balay-2011-12-16

Manifesto Project Fukushima! : http://www.pj-fukushima.jp/fr/manifesto_fr.html
Bio/bibliography DB : http://www.varias.info/a-propos/
Websynradio: http://websynradio.fr/
Review Droit de Cités: http://droitdecites.org/
Facebook WebSYNradio : http://www.facebook.com/profile.php?id=1694364385
APO33 : http://www.apo33.org/fr/
INA GRM : http://www.inagrm.com/

「不名誉な地として世界に知られた FUKUSHIMA。 しかし、わたしたちは福島をあきらめません。 故郷を失ってしまうかもしれない危機の中でも、福島が外とつながりを持ち、福島で生きていく希望を持って、福島の未来の姿を考えてみたい。 」
プロジェクト FUKUSHIMA! 実行委員会
和合亮一／遠藤ミチロウ／大友良英（２０１１年５月）